

# 企業の社会的責任による森林管理の現状と課題

○小林克己（東京農業大学大学院）・宮林茂幸（東京農業大学）

## はじめに

2008年現在、地球環境問題を考慮した「企業の社会的責任（以下、CSR）」が注目されている。CSR活動の中には、森林を対象とした活動も多くみられる。そして、その活動は極めて多岐にわたっており、活動の主体や対象地、連携手法やパートナーの種類なども様々である。そこで本報告は、企業による森づくりを典型的に整理し、なぜ森林整備を行う理由を明らかにすることを目的とするものである。具体的には、山梨県小菅村で行われている企業の森づくりを事例とし、受け入れ地域の態勢整備について考察する。

## 調査方法

まず、CSR活動における企業の森づくりの類型化を行ったうえで、都道府県が行っている企業の森、「法人の森林」を中心に資本の規模や地域性などについて整理する。次に、企業の森づくりを受け入れている地域の受け皿の手法と課題に関して、山梨県北都留郡小菅村、北都留森林組合、多摩川源流大学、多摩川源流研究所に聞き取り調査を実施して考察する。

## 結果と考察

企業の森づくりは、大きく分けて①資金提供型、②社員派遣型、③産官連携型、④NPO協働型、⑤社員ボランティア支援型、⑥イベント主催型の6つに分類することができる。しかしながら、実際はこれらを組み合わせて行っている場合も少なくない。企業の森づくりの特徴としては、大手企業が複数の箇所で、しかも比較的大面積で実施している場合が多い。

企業がCSR活動として森林整備を行う理由は、1つには更なる利潤拡大である。企業は、森林を利用したCSR活動を行うことにより、企業のイメージアップ・企業価値の向上を図り、それによってステークホルダーを確保することができる。2つには、社会の要求に対して社会の一員である企業が、その要求に応えるためである。このように、企業が森林を利用したCSR活動を行う理由は、企業の更なる利潤拡大と地域社会の一員としての責任という二面性があることが言える。

次に、企業の森づくりの受け入れ側である山梨県北都留郡小菅村は、今日の山村において負担になっている村おこしや森林整備を企業に担ってもらうことを期待している。また、企業が森づくりのPRをすることによって村のPRにもなっている。また、森林組合においては、村おこしや活性化事業との連携が薄く、従来の補助金と同様な形態となっていることが少なくない。

以上のことから、CSR活動による森林整備の課題を整理すると次のようになる。

1つは、企業の森づくりを地域の村おこしや森林整備の促進として進めているが、村民の当該活動への参加や理解に関しては疑問が残る。そこで、広く地域住民を巻き込んだ活動へ展開していく必要がある。2つには、企業の森づくりは一般的に契約期間が短いため、対象地の長期的な森林整備計画を検討したうえで行う必要がある。3つには、経済状況によって企業の支援が縮小ないしは撤退する可能性があり、地域が主体となった発展可能な活動へ展開する必要がある。

(連絡先:小林克己 small-forest\_keia23@hotmail.co.jp)